公民連携による地方中心市街地活性化計画

- 福島県須賀川市の地域市場へ "Rojima" が参入する仕組み -

Revitalization Plan of Local Central Districts through Public- Private Partnership.

-A System for “Rojima” entering into the Local Market in Sukagawa, Fukushima-

安田研究室　15M17239　西 慶三 (NISHI, Keizo)

1. 序　東日本大震災により多大な被害を受けた福島県須賀川市では、行政施設の再建や民間事業の立上げ、さらには第３セクターによる新しい市民活動が中心市街地で行われており、公民が一体となった復興活動として位置付けられる。こうした活動には、各々が固有の律動性の中で市街地を活気付けるだけでなく、街全体に有機的な繋がりを生み出すことで、新しい街へと更新するための波及効果が期待できる。本計画は、"Rojima" という郊外の若者が主体となり中心市街地で開催されている手作り市に着目し、市街地に点在する空き地・空き家利用を通じて、若者が自発的かつ日常的に活動できる場を構想することで、「点」として行われている復興活動に重層的な賑わいを創出して街全体を「面」として捉え直し、新たな街へと更新する中心市街地活性化計画を提案する。

2. 中心市街地における空き地・空き家の現状

須賀川市の中心市街地[1)]では、東西南北に横断する車道が、市街地を４区画に分割しているため、街全体としての関係が希薄になっている。また、空き地・空き家が市街地全体に点在しており、現状では利用目的が定まらずに放置されているため、無味乾燥な景観が形成されている (図 1)。しかし、こうした既存ストックに着目し有効利用することは、市街地に新たな面的な繋がりを構築し得ると考えられる。

3."Rojima" を媒介とした空き地・空き家利用

中心市街地では震災復興を目的として行政事業を中心とした公民一体の復興活動が市街地に活気を与えている (表 1)。その中でも、近年 "Rojima" という活動が、市街地の空き地・空き家を利用して毎月開催されており、多種多様な商品を通して、子供から高齢者まで多世代の市民が集い賑わっている。さらに、実施回数を重ねる毎に、出店数は増加し、出店者の過半数は郊外の若者であることから、中心市街地の地域市場への参入に対する若者のニーズが窺える (図 2)。こうした若者の姿勢は、少子高齢化の著しい地方都市において重要であり、地域市場に関わる機会が月 1 度の "Rojima" だけではなく、より日常的に展開できれば、中心市街地の活性化に繋がると考えられる。そこで本計画は、空き地・空き家利用を通じて "Rojima" の若者が地域市場へ参入していき、街中に若者の活気が溢れるような新たな枠組みを提案する。

4. プロジェクト

4-1."Rojima" の活動拠点　"Rojima" の若者による活動が市街地において日常的な活動として展開されるためには、その他の復興活動や既存の市民活動と連動し、重層的な賑わいを創り出す活動拠点が必要である。そこで、若者が空き地から空き家へと段階的に活用することを想定し、市街地にみられる復興活動や祭事の活動周期と位置関係から活動拠点となる空き家が隣接した空き地を各区画ごとに選定した (図 3)。例えば計画地２では、月に１度の地域交流館ボタンで子供体験教室が開催される際には、若者が空き地を利用してワークショップを行い、年に１度の須賀川市の名物行事である松明あかしの際には、空き地前に観覧席や出店を準備するなど、周囲の市民活動と連携を図りながら、「点」としての復興活動に有機的な繋がりを生み出し、街全体を「面」として更新する。

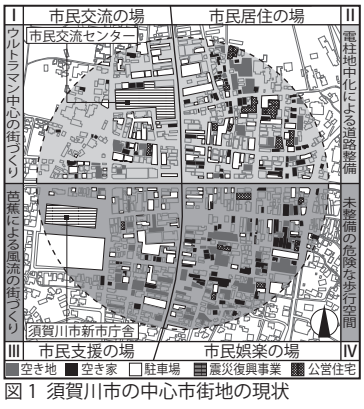


図 1 須賀川市の中心市街地の現状

表 1 中心市街地における復興活動

		具体的な復興活動
行政主体		市民交流センター (仮称) 震災で倒壊した総合福祉センターに代わる図書館や子育て支援などの複合施設
		須賀川市新市庁舎 震災復興のシンボルとして役所の機能だけではなく市民ホールも併設されている
第３セクター		Rojima 若者が主体となり空き地・空き家に仮設テントを設け毎月実施される手作り市
民間主体		地域交流館ボタン 交流センター完成までの間、市民活動を定期的に行う場として整備された施設
		芭蕉記念館 松尾芭蕉の歴史を伝承する場として定期的に市民の歴史勉強会が行われている
		あきんど祭り 商店街の経営者が主体となって、店のセールを行い、地域経済を活気づける祭り

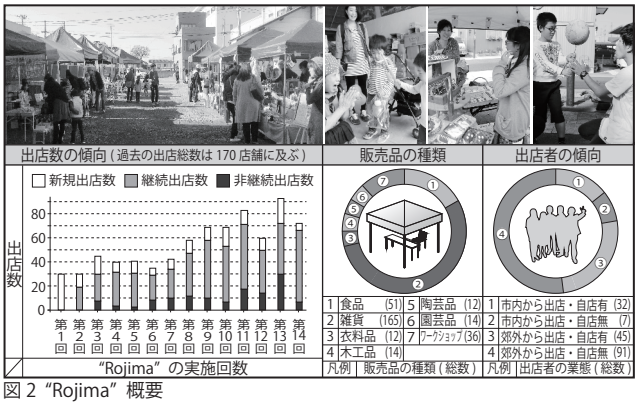


図 2 “Rojima” 概要

4-2. 全体計画　既存商店街に日常的に若者が訪れ、商店を経営する高齢者との交流を促進することで、地域市場の活性化を図る。そこで、行政主導の街づくり計画と連動させながら、若者有志の増加に合わせて活動拠点を漸次的に展開し、商店街を巻き込んだ回遊動線を計画する。また、長期的な視点で、回遊動線沿いの空き地・空き家を利用していくことで、新たな景観を創り出し、豊かな歩行空間を構築する (図 4)。

4-3. 建築計画　"Rojima" の若者が主体となり空き地から空き家へと活動拠点を展開するにあたり、誰でも簡易に空き地利用が行えるように、過去の空き地利用の事例調査[2] を通じて、空き地を構成している 74 のパタンを抽出し、コミュニティ形成や農的活動利用といった目的ごとに必要なパタンを体系化[3] した。さらに、「各計画地における空き地にみられる要素」「"Rojima" にみられる要素」「既存の市民活動にみられる要素」に含まれる 11 のパタンを新たに加えることで、計画地ごとに利用目的を定め、それらと "Rojima" の活動や市民活動を関係付けるために必要なパタンを抽出した。そのような要素が空き地に一堂に会することで、日常的な活動から祭事といった活動まで、仮設的に利用されていた要素や常設的に利用されていた要素を介して、新たな関係を築く。さらに、空き地・空き家を利用して仮設的に開催されていた "Rojima" の活動がより日常的に展開される。

5. 結　本計画では、福島県須賀川市の中心市街地を対象として、市が促進する「点」の復興施設から街全域に広がっていく「面」としての市街地活性化計画を構想した。具体的には、"Rojima" の重要性をさらに促進する空き地・空き家利用によって、若者が日常的に市街地で活動を展開し、街全体が活気付くための一手法を提案した。

1) 本計画では、須賀川市の中心市街地として高齢者の移動可能圏を目安に、市街地を横断する道路の結節点から半径 300m 程度以内を対象地域として扱っている。
2) 国土交通省、国土交通政策研究所が執筆した「オープンスペースの実態把握と利活用に関する研究」で扱っている空き地利用の事例を中心に、インターネットや雑誌などから十分な情報が得られた 69 件の空き地を対象事例としている。
3) このようなパタンとその連関の集積から一つの言語体系を形成する手法は「パタン・ランゲージ」(C. アレグサンダー他著 , 平田輪那訳 , 鹿島出版会 , 1984 年) を参照した。

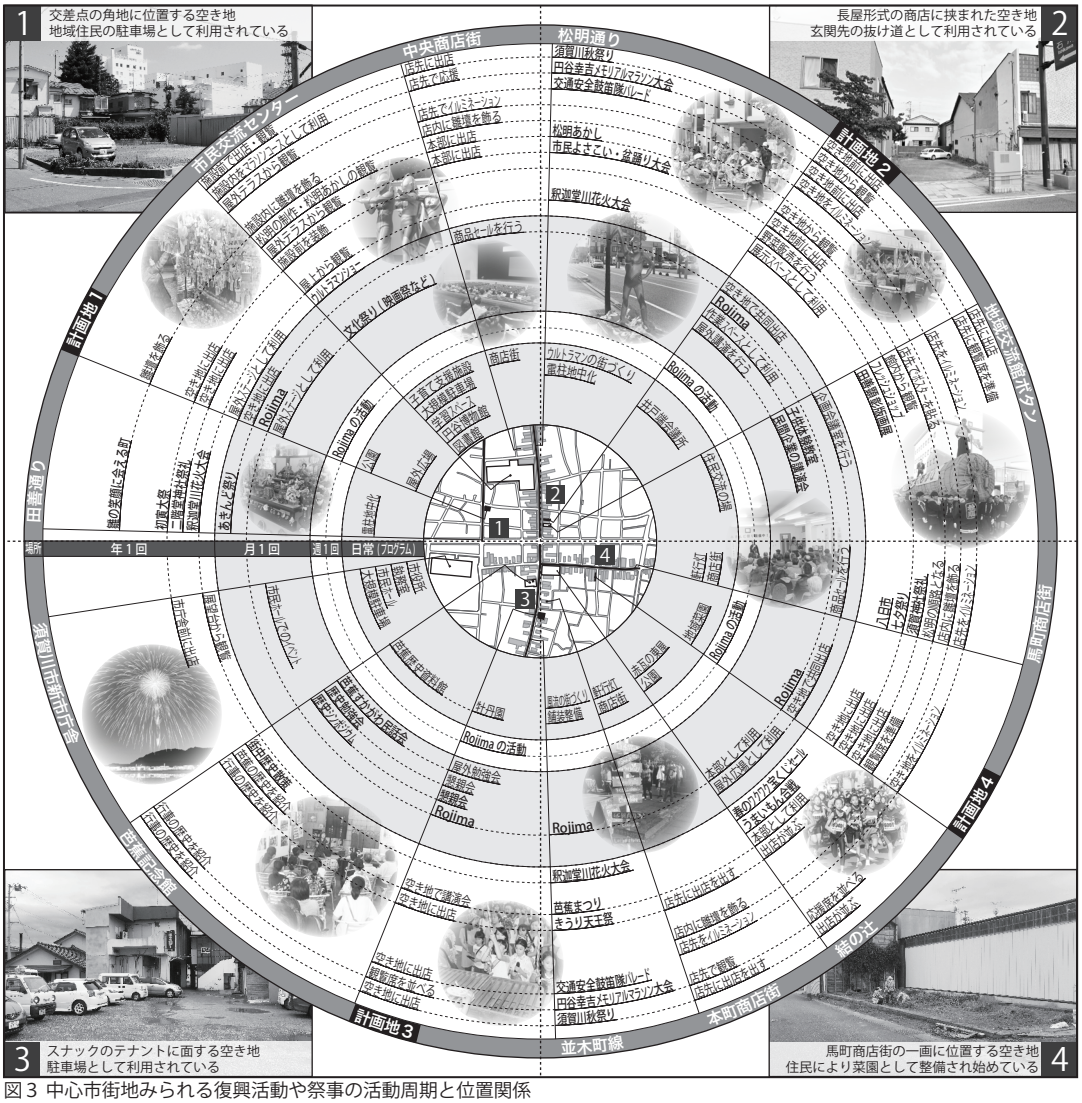


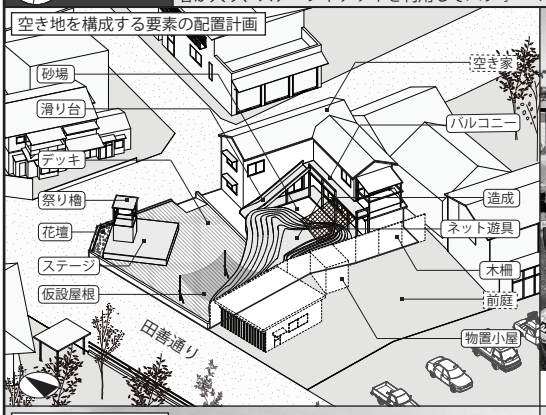
図 3 中心市街地みられる復興活動や祭事の活動周期と位置関係

図 4 全体計画

計画地 1
イベント利用

空き家の庭に面し、駐車場として利用されていた空き地を、イベント利用を目的として整備する。駐車場にはデッキを張り、既存の芝生を造成して縁側やバルコニーと一体となった遊具を設けることで、日常的には接道面から移動販売車が来たり、子供の遊び場として活気付いた場となる。そこに、"Rojima" の若者が入り、ステージやデッキを利用してパフォーマンスやワークショップを行うことで、様々なイベントが頻繁に開催され、賑わいのある空き地となる。

空き地を構成する要素の配置計画



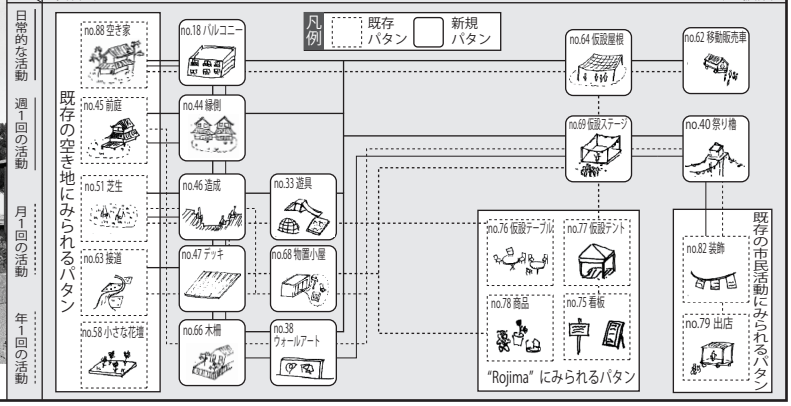
月１回行われる活動の風景

若者による仮設ライブ：祭り櫓に" Rojima" の看板などの装飾が施され、ステージを使い若者が仮設ライブを行う。仮設屋根や仮設ベンチを囲むように造成された芝生に観客が腰をかけ、子供から高齢者まで一体となって盛り上がり、空き地を活性化する。

日常的な活動の風景

昼時の公園：移動販売車が来訪し、市庁舎で働く人が休憩する横で、市民交流センターに訪れた子供や若者が芝生で横になったり遊ぶことで、日常的に多世代の交流を生む。

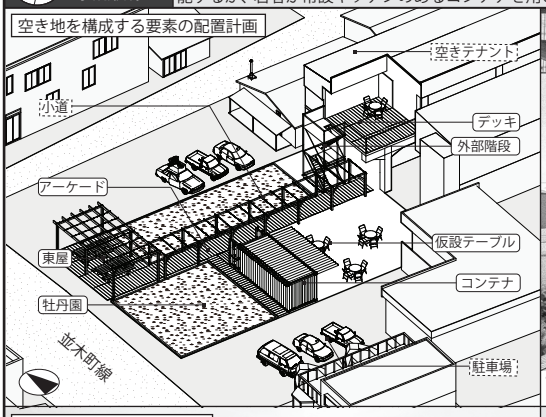
空き地におけるパタンの連関表



計画地 3
景観形成

１階がスナックで２階が空きテナントとなっている建物に面した空き地を、景観形成を促進する目的で整備する。そのために、須賀川市の名物である牡丹園を中心に東屋や大きな花壇を設けることで南部地区が推奨する「風流の街づくり」の一環となる。日常的には、昼は牡丹園で夜はスナックへの抜け道として機能するが、若者が常設キッチンのあるコンテナを用いて仮設的に飲食店を経営することで、市庁舎勤務の人が仕事帰りに立ち寄り、夜間に活気ある広場となる。

空き地を構成する要素の配置計画



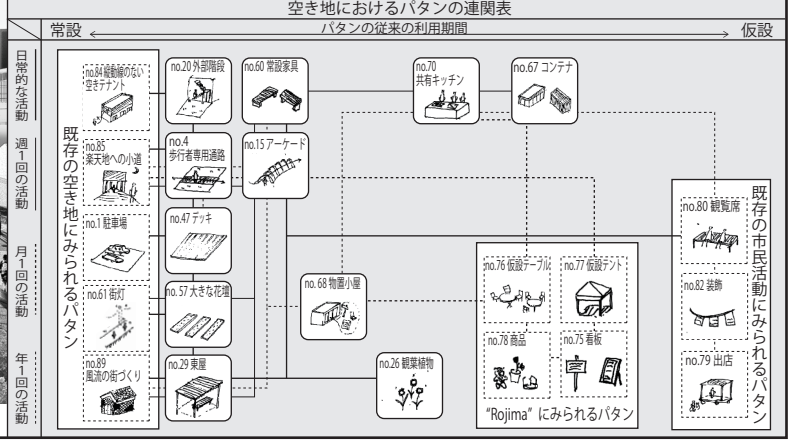
月１回行われる活動の風景

"Rojima" の商業活動：日常的に、昼は牡丹園の東屋、夜はスナックまでの抜け道として機能するアーケードは、若者が装飾を施し商品を並べて" Rojima" の活動をすることで、牡丹園に訪れた住民や観光客の目を引き、商売することで地域経済に貢献する。

年１回行われる活動の風景

円谷幸吉メモリアルマラソン大会：牡丹園の東屋やキッチンが常設されたコンテナ、また空きテナントへの外部階段から沿道を走る選手を皆で一体となり応援する。

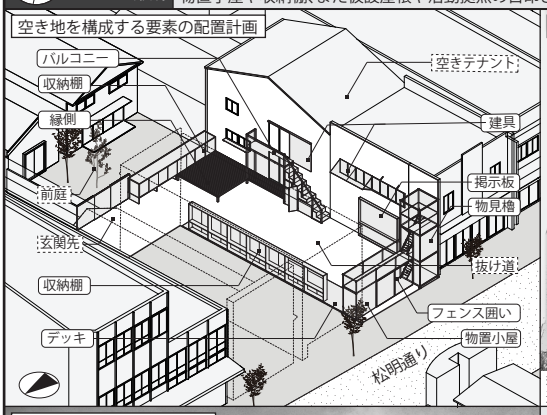
空き地におけるパタンの連関表



計画地２
コミュニティ形成

住宅の玄関・前庭に面する空き地を、コミュニティ形成を目的として整備する。フェンス囲いを設けることで、松明通り沿いに特定の活動領域をつくり、日常的に住民の井戸端会議が空き家を利用して設けられた縁側やバルコニーを通じて行われる。そこに、”Rojima”の若者が雑貨などの制作が行えるように自ら物置小屋や収納棚、また仮設屋根や活動拠点の目印としての物見櫓を設けることで、商店街に訪れた人の目を引き、”Rojima”の活動を広報するための場となる。

空き地を構成する要素の配置計画



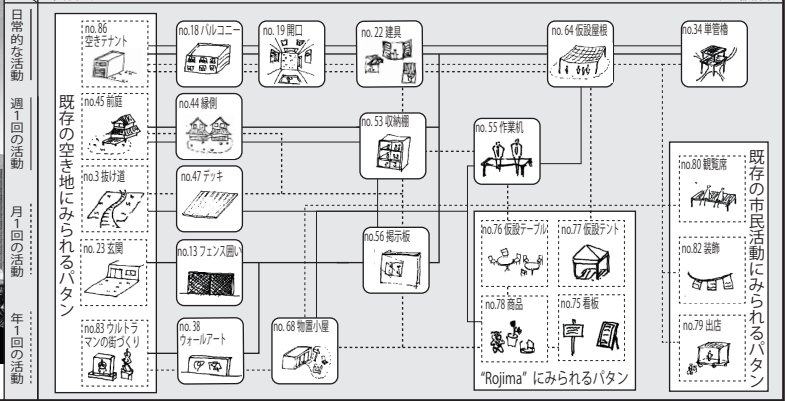
週１回行われる活動の風景

若者によるワークショップや雑貨制作：仮設屋根や可変的な壁付け収納棚を作業机やベンチとして若者が自由に利用することで、通りかかった子供や地域住民とワークショップや雑貨制作を通じて松明通りに活気をつくり、商店街を盛り上げる。

年１回行われる活動の風景

松明あかし：日常的には空き地の囲いをつくる物見櫓や物置小屋は、祭事の際には観覧空間として変化することで、沿道に立体的な賑わいを創り出し、街の行事を支える。

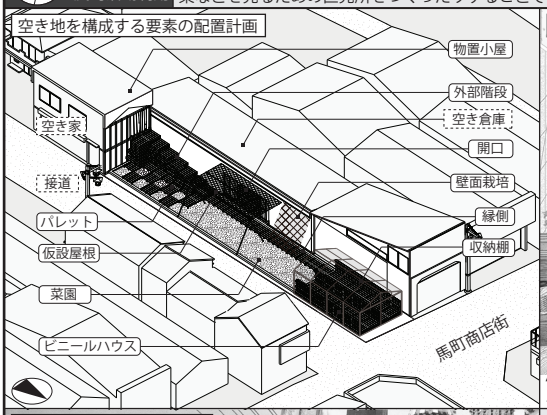
空き地におけるパタンの連関表



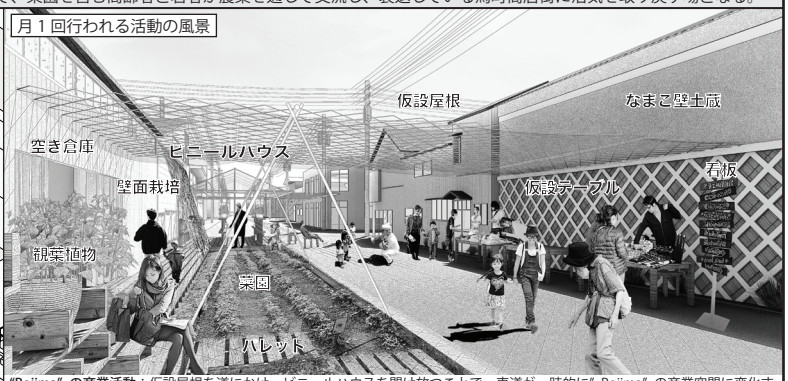
計画地４
農的活動利用

地域住民が菜園として利用し始めている空き地を、農的活動利用を目的として整備する。隣接する空き家や空き倉庫を利用して農具を収納するための物置小屋を設ける。そこに、”Rojima”の若者が園芸用品やその制作道具を収納できるようにビニールハウスを設けたり、仮設屋根を用いて自らの農園で収穫した野菜などを売るための直売所をつくったりすることで、菜園を営む高齢者と若者が農業を通じて交流し、衰退している馬町商店街に活気を取り戻す場となる。

空き地を構成する要素の配置計画

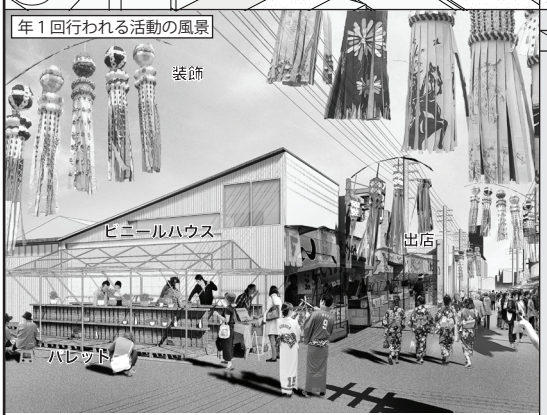


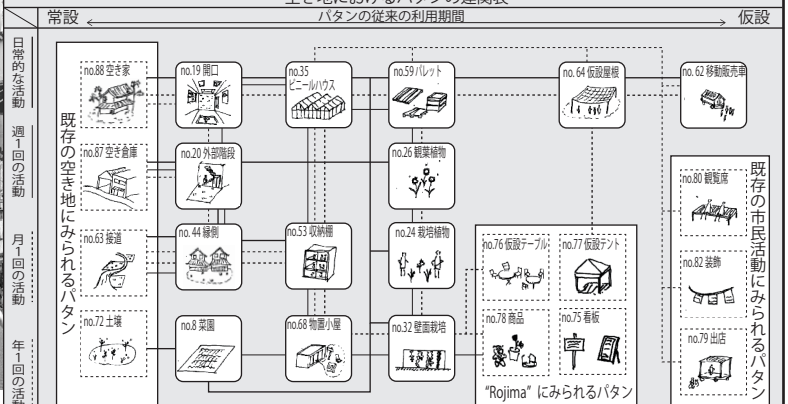
月１回行われる活動の風景



“Rojima” の商業活動：仮設屋根を道にかけ、ビニールハウスを開け放つことで、車道が一時的に”Rojima”の商業空間に変化する。買い物に来た若者が菜園で栽培されている野菜や観葉植物に興味を持つことで、地域住民の活動に参加するきっかけを生む。

年１回行われる活動の風景



七夕祭り：若者が自ら制作した園芸用品などを収納するビニールハウスが、祭事の際には、商店街の屋台の一つとして並ぶことで、”Rojima”の活動を地域住民に広報する。

空き地におけるパタンの連関表